

2021.12.16 (木)
第18回例会
(通算3645回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	疾病予防と治療月間
本日のプログラム	情報集会報告会 (担当: クラブ研修委員会)
次週例会	釧路ロータリークラブ重大ニュース (担当: プログラム委員会)

- ロータリーソング: 我等の生業 ■ ソングリーダー: 米倉 幸泰君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト

会長の時間 杉村 莊平会長



お食事の方は、お続けいただければと思います。本日はまた多数ご出席をいただきましてありがとうございます。

先週の『クリスマス家族会』は、今年の9月に休会になった時には「もしかしたら開催ができないのではないか」という思いもありましたけれども、盛大に開催できまして感慨深いものがありました。ありがとうございました。また親睦活動委員会の皆さんには、コロナの中、開催が難しい中で事前に委員会を何度も開催をしていただきまして素晴らしい家族会を開催していただきました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

また、理事の皆さま・副幹事のお二人には、素晴らしい『理事出し物』をしていただきまして、手前味噌でございますが例年を軽く凌駕する、例年に類を見ない、格段の違いの出し物をご披露できたのではないかと思います。重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。ちょっと言い過ぎました。すみません。

会長挨拶・釧路歴史編の付録になりますけれども、ネタを調べていた時にクリスマス家族会の「間違いなく歴代で一番盛大だったクリスマス会」を見つけまし

たので、そこだけご紹介したいと思います。

1967年の砂山会長年度ですが、場所が、なんとキャバレー銀の目を貸し切りで、参加人数が290名。僕が見た中で最大のクリスマス会でした。どのように雇ったかはよく分かりませんが、司会はNHKの本職のアナウンサーです。昔ありましたが、サンタが天井から飛び出してきた、生バンドの演奏で銀の目さん専属ダンサーのダンスショー有り。予算がどれぐらいかかっているのかよく分かりませんが、とにかく昭和40年代当時の釧路の勢いは本当に凄まじいものだったと改めて見たクリスマス会、このような家族会がありました。

そのようなことで、家族会も無事に終わりましたので、年がもうそろそろ閉まってくるところで、今日と明日をしっかりとやっていきたいというところでございます。

今日は情報集会で報告がありますので、時間がないことは重々なのですが、ここでひとつ皆さんに大事なお知らせがありますので、少しお時間をいただきます。実は、事務局員の青島さんから退職願が出ております。一身上の都合ということで、少し体調に問題がありまして退職ということになりました。大変残念でございますが、会長挨拶で言うべきかどうかと思いましたが、皆さんにお知らせをしたいと思いますお伝えさせていただきます。

そのような事情がありますから、後任を探す時間があ

まりございません。つきましては、青島さんも、三ツ石さんもそうでしたが、口コミ的なもので探せたように思いますので、改めまして皆さんの近い方、知人の方、奥様のお知り合いなどがいらしたら良い職場だと思っておりますので、年末年始で大変申し訳ありませんが、どなたかいらっしゃいましたら早めに市橋幹事へお知らせいただき、引き継ぎを早急に行きたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

今日は、『情報集会報告』でして、手短かに終わらせたいと思っておりますが、改めましてこの情報集会にあたりまして、協委員長をはじめクラブ研修委員会の皆さんには大変ご苦勞をおかけしお世話になりましたことをお礼申し上げます。今日の会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

幹事報告 市橋 多佳丞幹事



皆さま、こんにちは。私から幹事報告をさせていただきます。

先日、前年度の荒井幹事からご報告があった昨年度の会報

綴りのPDF版データをメモリースティックに入った物を皆さまのキャビネットに入れておりますので、皆さまお持ち帰りいただければと思います。

また、冊子の方ですけれど、ご入用の方は私に言っていただければ15冊までですけれども皆さまにお渡ししたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

他クラブの例会は記載のようになっておりますが、釧路北ロータリークラブ12月22日金曜日となっておりますが水曜日の記載ミスでございます。

また、ニコニコ献金ですが、前回合計が190,000円となっておりますが、こちら191,000円に訂正をお願いいたします。それに伴い、今年度累計を370,000円となっておりますのでその修正もお願いいたします。

私からの報告は以上でございます。

■本日のプログラム■ 情報集会報告会

クラブ研修委員会 脇 弘幸委員長

皆さん、こんにちは。時間があまりございませんので、手短にお話をさせていただきます。今回の情報集会は、10グループに分けて開催をしていただきました。参加人数が延べ74名で、多くのメ

ンバーの皆さまにご出席をいただきました。ご参加いただいたメンバーの皆さまにはお礼を申し上げます。ありがとうございました。



今回のテーマが、今年設立60年、また今年吉田潤司理事長から石田博司理事長に引き継がれた『嵯峨記念育英会について』というテーマにさせていただきました。この育英会の在り方、また今後の展望などについて各グループで話し合いをしていただきました。

このあと、グループごとに報告いただきますが、例会の時間の都合もございまして、各グループ3分での報告をお願いいたします。時間が3分と短いものですから参加日時や参加者等については割愛をお願いできればと思います。参加者・開催日時等は、各テーブルに参加者一覧を配布しておりますのでご確認をいただければと思います。

発表の順番につきましては、Aから始まり最後はJグループという流れで順次ご登壇をお願いいたします。グループ名等はご紹介しませんので、前のグループの発表が終わりましたら速やかに登壇をしていただき報告をお願いいたします。

それでは、Aグループからよろしくをお願いいたします。

Aグループ 田内 康章君

皆さま、こんにちは。Aグループ・サブリーダーの田内でございます。Aグループの発表をさせていただきます。私を含め「炉辺会合に



出席をしたことがない」という方もいて、ましてや嵯峨記念育英会がどのようなものなのか、私も詳しく分かりませんでした。当日は、石田さん、脇さんにどのような経緯かなどを分かりやすく教えていただき、その中で現状の運営の仕方や基金の有効な使い方について討議させていただきました。

出た意見としましては、「釧路活性化のためにも地域貢献の職種に進みたい子どもたちを支援したらどうか」、「米山記念奨学会とは逆に釧路から海外へ進出したい子を支援したらどうか」という話も出てきました。その中で、支援をしている私たちロータリー会員と支援を受けている子どもたちがともに「釧路ロータリーは素晴らしい」と誇れるようにして行こうという話になりました。

そのような意見がどんどん出てくる中で少しずつ話がそれて、「釧路を良くするにはどうしたらよいか」という話題になりました。「釧路の良い所はたくさんあるけれども、他の地域との違いの自慢をしないところだ」「交通の便が悪く感じるが、良くするためには自然や環境を破壊してしまう。だからこそ、その不便が良い」と言ったところで、石田さんから「釧路へ来るなら1日前」というお話を受けまして、その言葉に納得・共感いたしました。最終的に得地さんが「文化遺産でもある旧日銀さんの建物を買い取る」という話でまとまりました。

最後に、参加されていた木村さんから「このように有意義な情報集会は初めてだった」と言っていたきまして、改めて自分たちの会費から支払われているお金でどのように青少年育成を行っているのかを知ることができて、とてもためになる情報集会でした。

以上です。どうもありがとうございます。

B グループ 東堂 光春君



こんにちは。Bグループの東堂です。今回の情報集会で嵯峨記念育英会について私も初めて聞かせていただき、歴史や伝統を聞いていくうちに釧路ロータリークラブ独自の組織であることを知って、本当にすごいこと、長い間語り継がれていまでも運営をしていることに感銘を受けました。

討議をしていく中で、いまの高校の苦学生への月額10,000円の支給について、「いまは高校の授業料の無償化などを受けて、そこまでお金に困っている学生がいるのか」というところから議論もされました。支援をした学生たちがいま何をやって、その後を把握できているのかも議論になりました。「せっかく奨学金を出すなら将来釧路に戻って貢献してくれる人材に絞った方が良くはないか」というような意見もございました。

まとめとして、対象を高校生から大学生にした方が良くはないかということで、「いまは大学生に苦学生が多いのではないか」という意見もありました。将来の夢に向かって頑張っている方に支援をする方が良くはないかということで、「地元のスポーツアスリートでプロを目指している子、芸能・芸術に秀出している人に将来は釧路のために頑張ってもらおうような支援はどうでしょう」という話もありました。「夢に向かって大学生にプレゼンを行ってもらい、1人に絞って一気に500,000円を奨学金として支援をして、夢を叶えてもらい、それを実現して釧路に還元してもらおう」という意見もたくさん出ました。

結論としては、僕の意見ですけれどもアスリートや芸能・芸術に秀出している学生、向かっている人にしっかり支援をして、釧路のために有名になってもらって、還元をしてもらうという奨学金制度がいいのではないかという結論に至りました。以上でございます。

C グループ 篠原 実君



皆さん、こんにちは。Cグループ・サブリーダーを仰せつかりました篠原です。よろしく申し上げます。

私も炉辺会合に初めて参加をさせていただきました。どのような話になるか少し不安でしたが、2時間があっという間に過ぎるような、皆さんにたくさん意見を出していただき話し合いをさせていただきました。

その中で私なりにまとめさせていただくと、大きく分けて3つあります。1つ目が、支援をする活動・活躍の内容はどのようなものか。2つ目に、支援の対象者はどのような学生か。3つ目ですけれども、支援の方法及び金額についてはどうか、と3つにわけてみました。

1つ目の支援をする活動・活躍の内容として、これは2つあって、これからの活動・活躍に期待を込めて夢のある内容であるかどうか。2つ目が、釧路の名を残す、または名を高める活動・活躍をした内容か。この2つ目の支援の対象者の中にも2つありまして、1つ目が、学業支援については、大学4年生で釧路に残り、水産業関連などで活躍に期待ができる学生。2つ目が、高専から大学を目指して今後の活躍に期待ができる学生。その他としてどのようなものがあるかということでは、スポーツ関係で日本代表などに選出されるような内容。もう1つが、楽器及び音楽関係で全国大会に出場するなどではどうだろう、ということでした。3つ目の支援の方法及び金額については、年間に複数の対象者ではなく年度内に1名に絞る。そして毎年ではなく対象者が出た場合に一時金で褒賞する。例えば一括100万円のお祝い金をあげることでどうだろうか、という意見が出ておりました。

最後にこの基金名、育英会設立の目的で『青少年にささやかな贈り物をする』と冊子に書かれておりましたので、この基金名を「釧路ロータリー夢物語基金」というのもいいのではないかという話も出ておりました。以上です。

D グループ 小野 正晴君

Dグループの小野です。Dグループの討議を報告さ

せていただきます。
あくまでも私がまとめましたので、私の責任でということ報告をさせていただきます。



Dグループは主に2つのテーマについて話し合っています。1つは、育英資金の現状認識について、もう1つは、今後の展望についてです。

現状認識については、Bグループとも同じような「高校生に毎月10,000円ほどの程度役に立っているのか疑問である」という意見です。「育英会が始まった60年前は高校進学率も低く意味があったのではないか。いまの公立高校は実質的に無償化されており、私立についてもかなりの補助が出ておりますので、いまはどれぐらいの意味があるのだろうか」という意見が出ました。「いまの時代のニーズに合う支援対象・支援額に変更すべきではないか」という意見が出ました。また、「報告会にも最近出席をしない奨学生が多いけど、必ず出席を求めるのも行き過ぎで、趣旨に反するのではないか。そうした礼儀の部分教えることは親の責務ではないか」といった意見も出ました。一方で「応援をしている生徒がいまのような生活、将来展望を持っているのかをぜひ聞きたい」という意見もありました。

そのような現状認識を元に今後の展望についてです。1つは、「今後の方針が決まるまで現行の奨学生制度は当面ストップすべきではないか」という意見が出ました。このストップとは、現在の高校1年生で卒業まで給付を始めている生徒さんがいますが、その生徒さんには卒業まで給付をしますが、新年度からの募集を一旦ストップしてはどうか。その上で、対象は先ほど同じような意見も出ましたけれども、コロナ禍で大学中退の動きもあるので、対象を大学生にしてはどうか。月の支援額も10,000円ではなく数万円に増額してはどうか、などです。

この場合でも釧路出身者、もしくは釧路にある大学・高専が対象。元々の趣旨、釧路の発展に寄与する人材を育成するという観点は大切にすべきだ。さらに「若手経営者にも対象を広げてはどうか」という意見も出ました。この場合、開業資金や支援額は増額する必要があります。その中で、5,000万円の基金を取り崩してはどうかという議論にまで発展しました。

ただこの基金の取り崩しについては、賛否の意見がありまして有効に支援をするためにも取り崩しても良いのではないかと意見がある一方、教育は長期にわたる投資であり、限られた学生を支援して釧路の発展に資するかどうかは分からない。できるだけ長く制度を設けて多くの学生を支援するためにも基金は取り崩

すべきではない、という意見も出ました。

その他として、「われわれロータリアンが嵯峨記念奨学金について関心を持つべきだ」という意見が最後に出たことを報告させていただきます。

すみません。少し時間が延びまして失礼いたします。

Eグループ 小西 卓哉君

皆さん、こんにちは。Eグループは、小西から発表をさせていただきます。時間の関係から割愛をしながら本題から述べさせていただきます。



過去の育英会の話を変えながら、大胆に発想の転換もありではないかというテーマとしてざっくりばらんな会話をさせていただきました。いま私5番目の発表ですが、話が被ってきているのでご了承いただきたいと思っております。

大きく3つに絞りました。1つ目として「勉強だけでなくスポーツ・文化系クラブに燃えている高校生を対象にしてはどうかということです。例えばアイスホッケー、フィギュアスケート、ピアノ、バイオリン等々、地元から羽ばたく可能性を持った若者を対象にしては」との意見がありました。現在は高校の先生から推薦を受ける形で対象者を選考していますが、なかなか対象者が集まらないとも聞いております。そこで勉強に限らずスポーツ・文化系クラブなどを対象に加えてはどうかという発想の転換です。

2つ目として、先ほどもありましたけれども、そもそもいまのニーズに合っているのか。違うニーズもあるのではないかと、というテーマです。現在、1人毎月10,000円ですが、対象者を絞って1人あたりの金額を30,000円や50,000円と厚くする。また該当者がいなければ、その年度は繰り越しをして次年度に金額を厚くして支給をする。また金額は3年間定額ではなく単発で100万円といった形の支給支援もありではないか、という意見が出されました。

3つ目として、対象者を高校生に限定せず大学生を対象にしてはどうか。これは先ほどから意見が出ていますけれども、せっかく地元で4年制大学が2つもあり、卒業生が将来世界へ羽ばたく可能性もあることに目を向けてはどうかという発想です。

先ほど話をしました勉強・スポーツ・文化系クラブの対象者に月々数万円を支給することも1つの方法ありますが、ここは発想を転換して、最近増えている学生の起業化に先行投資をすることも1つの方法ではないかということです。もちろんケースバイケースですが、基金を一部取り崩して1人に数百万円～1,000

万円を先行投資する形を取って将来釧路にフィードバックしてもらおうという大胆な意見も出ておりました。

以上、大きく3つの意見がありましたけれども、嵯峨記念育英会の定款や規定から一部逸脱したと思われる議論にもなりましたけれども、大胆な発想の転換、殻を破る発想、可能性を秘めた子どもに夢を託すという思いから、少しでも嵯峨記念育英会をバージョンアップし、進化させたいと議論が交わされました。以上でEグループの発表を終わります。

Fグループ 吉岡 央君



お疲れ様です。Fグループの発表は、吉岡からさせていただき

ます。今回の会合に参加をさせていただき、まず私自身があまり理

解をしていなかった嵯峨記念育英会の内容を理解することができて、参加をさせていただき良かったと思っています。

われわれの班で出た意見としては、既に皆さんが発表されたものと大体同じですけれども主なものでは、「この仕組みは、釧路の人が釧路の人のために作った奨学金制度で、素晴らしいもの。その意志を継続するために学生さんへの奨学金制度は続けていくべき」という話がありました。

ただ他の班でもありましたが、「スポーツなど特別な形で支援できる仕組みがあっても良いのではないか」という意見もありました。「その支援を受けた人たちには、市内にある嵯峨さんの銅像の周りの草刈りや清掃活動をして、嵯峨さんのことをもっと知っていただくことがあっても良いのではないか」という意見がありました。

その他に出た意見としては、ロータリークラブは経営のプロの集まりなので、釧路で起業したいという人たちへの支援として釧路版の『マネーの虎』を開催して、起業したい人にプレゼンをしてもらい、皆さんが審査員となって、「これだ!」というものに対して支援をしてはどうか、という意見が出ましたけれども、これは公益財団法人として「収益事業はできませんね」という結論になりました。

以上、Fグループではこのような意見がありました。ありがとうございます。

Gグループ 竹村 康治君

Gグループは、竹村から報告をさせていただきます。会合では冒頭、脇さんと石田さんから基金のこれまでの経緯や運営状況について丁寧に説明をしていただき

ました。私もロータリーは日が浅いので、非常に勉強になりました。ありがとうございます。

基金自体については、嵯峨晃さんの思

いを受け継ぐ釧路ロータリー独自の大切な事業で、これからも続けてほしいということで異論はありませんでした。ただ、対象の人を選考するにあたって、本当に奨学金を必要とする生徒に巡り会えているのかという問題提起がありました。

今は公的な私的な奨学金もありますから、そこから落ちこぼれて本当に苦学している生徒を見つけ出しているのか。月額10,000円という金額も含めてどのような支援がいいのか、また選考の方法も見直すべきではないか、という意見が出ました。

選考の方法については、特に学校推薦について議論になりました。メンバーからは、学校の先生が非常に多忙で、生徒ひとりひとりの事情や家庭の状況まで深く把握できていないのではないかと。学校でもロータリーに推薦するのだから、それなりの生徒を選ばなくてはと思い表面的な情報だけで推薦しがちになるのではないかと。また一方で、ロータリーとしても学校に任せただけの方が選考ミスにならないという事情もあって、どうしても選考が形骸化しているのではないかと、という指摘がありました。提言として、労力を惜しまず学校推薦を止めて、生徒自ら応募をもらう公募方式にして呼びかけて募ってはどうか、という意見がありました。あとは、皆さまからも出ていましたけれど、「学業ばかりではなくスポーツや文化など一芸に秀出した生徒なども対象にしてはどうか」や「釧路市内だけではなく東北道全域を対象にしたらどうか」という意見などもありました。

良い話が出たところで、メンバーの1人の差し歯が取れてしまい爆笑になって、それで話が終わってしまいました。

以上、簡単ですが報告とさせていただきます。ありがとうございました。

Hグループ 織田 亨君

Hグループのサブリダー織田です。よろしくお願いたします。Hグループは私を除いて、どう考えてもあまり真面目そうな方はいらっ

しゃらないので、本当にこの議論をするのかと不安だったのですけれども、約2時間、一度も脱線をする



ことなくみんなが真剣にこの育英会について議論をさせていただきました。

育英会、制度としては本当に素晴らしいものだという事で一致をしております。ただ、問題点としては、この時代、月 10,000 円という支給額にありがたみがあるのかということ。それから、「そもそも苦学生とは」や「相応の奨学金制度が他にもたくさんあります」、それから「支給されている間の3年間、生徒さんにお会いする機会がない」「支給のしっぱなし」等の問題点が出てまいりました。

では、どのように変えていくことが良いのかでは、「月々 10,000 円ではなく毎年 1 回年間 120,000 円をこのロータリーの例会に来ていただいてお渡しをする」。または「該当する人数を減らして 1 人当たりの支給額を引き上げる」「将来、釧路に残る学生さんを優先して選び支援する」、また「釧路市内の中学校へこの制度のパンフレット等をお配りして伝える」「学業に対する支援の他に、スポーツ分野の学生さんも選択肢の 1 つとする」等々と改善策の話が出てまいりました。

余談で唯一脱線をした話が、このメンバーで「私たちの高校時代はどのような学生だったのだろう」と少し脱線をしましたけれども、いまはとても紳士で格好いい土橋さん、脇さんの高校時代の話になりました。私が言うのもあれなのですけれども、「高校時代のお二人はとても悪い方だった、道ですれ違う時も非常に怖かった」と。これは私が言っているのではなく参加メンバーの某建設会社の社長さんがおっしゃっていました。

ちなみに私は銀行員ですので、高校時代はきちんと Y シャツは第 1 ボタンまで止めて、詰襟もホックをきちんとして非常に真面目な学生だったものですから。おそらく脇さんと土橋さんはひよっとしたらリーゼントかパンチパーマで、長ラン・ボンタンをはいて恐ろしかったのではないかと思います。以後、私は本当にお二人を直視できないのですけれども、終わってから私に隅で暴力を振るわないようお願いいたします。すみません。

以上でございます。

I グループ 曾我部 元親君

皆さん、こんにちは。I グループのサブリーダーを務めました曾我部です。初めての機会ですので、少し緊張をしています。

わがグループでは、他のグループと同じで、「対象については、高校生より大学生が良いのではないかと



という意見が出ました。ただ公立大学の卒業生を見ても管内に就職をする学生が 2 割程度しかいないということですので、管外に就職をするような学生に支援することはどうかと言ったような意見も出ました。

それよりも、「いまの若者は奨学金の返済に大変苦しんでいるのが現状らしいので、社会人に支援をしてはどうか。これは I ターン・U ターンにもつながる政策ですから良いのではないか」という意見が出ました。ただ「転勤なども考えられますので、一定の縛りは必要ではないか」ということです。

この財源について非常に話が出ました。いまは奨学金の最低額も 20,000 円ということですので、当然 10,000 円では足りません。「そのためには、資産を増やさなければならず、例えば会員の増強で 100 名を 150 名、1.5 倍にする」意見も出ました。ただ、釧路クラブは小船井さんが入会した時と変わらない体制で、100 人以上いることは素晴らしいことですが、全国的にみると 12 万人～8 万人と減少していますので、おそらく釧路クラブにとってこれ以上増やすことは難しいのではないかとということです。

では、どうするのか。「会員の負担を増やす」という意見が出ました。ただ全員に負担を求めることも大変だろうということで、これまでリーダーシップを取っていただいた方の負担を増やすということでございます。もう一度言います。これまでリーダーシップを取っていただいた方々の負担を増やすということです。具体的には、バスト会長やバストガバナーと名前が出ました。私のメモには金額も入っていますが、議事録が残るとまずいと思いますので。結構、大きな数字が出ております。

あとは基金について。これについても「運営費として使われている部分のオーバーをした部分については、こちらの基金に移してはどうか」という意見も出ました。

最後になりますけれども、僕が初めてこの情報集会に出て心に残ったことが 2 つあります。1 つは、青少年に対する奉仕は釧路クラブの誇りであるということ。もう 1 つは、3 月の例会で、抜ける方がここで謝辞を言われるそうですが、その時に「釧路クラブで良かったと、そう思える」と言う。これは小船井さん、天方さんの言葉ですが、それが非常に心に残った情報集会でした。以上でございます。

J グループ 濱口 憲太君

皆さん、こんにちは。J グループのサブリーダーを仰せつかりました濱口が報告します。何より、入会をさせ



ていただいて4カ月という短い期間で、全く分からない、そして大変緊張ある場面でしたので、ご報告内容に少し違うのではないかとというような点がございましたらご容赦をと思います。

テーマ『嵯峨記念育英会について』、当グループで話し合われた内容のご報告をさせていただきます。当日ご参加の育英会第6代石田理事長より、嵯峨記念育英会とは、その歴史や現在に至るまでの大変貴重な話をさせていただきました。その後、主に育英会のこれから、移り変わる社会背景を直視したうえで、どのような懸案があるのか。また育英会の理念とその目的を果たしていくために今後どのような変化が求められるのか、を中心に話し合いがされました。

主な内容としては、社会経済や生活レベルの向上の変化に伴いまして、当初に比べ現在では、経済的に困難な学生、いわゆる苦学生というものが減少傾向にある。また現在の社会情勢を踏まえて、当財団の奨学金制度を検証し、必要に応じて一部見直すということも今後は視野に入れる必要があるのではないだろうか、が話し合いの焦点となっております。

具体的にどのようなことが話し合われたかですが、かなり重複する部分はあるかと思えます。

1つ目は、時代の流れで、「奨学金を受けることに対する対象者の感じ方に変化が見られるのではないだろうか」という意見がありました。また学校から高校生の推薦がされますけれども、その際、成績を重視されると思いますが、成績も大事だがやはり本人の頑ななまでの学ぶ意欲。成績はそうでもなくても本当に頑張りたいという学ぶ意欲が強い人間に光が当てられているのかどうかもしっかり見ていくべきではないかという意見もありました。

また、運営面ですが、給付額 10,000 円が妥当なのかどうか検証が必要であり、増額も検討するべきではないかという意見もありました。さらには給付対象を高校生から大学生への支援にした方が良いのではないだろうかという意見がありました。

話し合いの流れでは、大学生対象という点でお金だけではなく、例えば物資支援も併せて検討をすることも良いのではないだろうか、という意見も出ておりま

した。

また、給付金増額では、「当然会員の理解が必要」であり、また給付対象を大学生にという意見では「学業・生活、その他で困って支援を必要としているのは大学生ではないか」。その大学生を支援するというところから育まれる「われわれとの絆」というところに、今後釧路に留まっていたら、今後釧路を支える人材となってくれるのではないだろうかという期待も含まれているように感じておりました。

また、われわれ会員も釧路で事業を行っている身としても決して他人事ではありません。大学生支援については、今後の地域経済の活性化、または次代の釧路を担う人材の定着という観点からもこの点を重要視して取り組んでいく必要があるのではないかという見解が示されていたように感じております。

最後に、石田理事長より「今回の情報集会を経て、釧路クラブ会員全員で育英会の理解を深め、これからのよりよい育英会の発展に向けた議論を進めていきたい」という強いお話を頂戴しまして、Jグループ全員が嵯峨記念育英会への気持ちをひとつにして会合を終えました。以上となります。

クラブ研修委員会 脇 弘幸委員長

発表をさせていただきました皆さま、大変ありがとうございました。今回のテーマが「嵯峨記念育英会」ひとつでしたが、この育英会に対するメンバーの思いがやはり強い情報集会だった。情報集会の中で、ほとんど脱線することもなく、いろいろな角度から話し合いが持たれたということで、大変良い情報集会だったと思います。

また、今年度から石田理事長に引き継がれたということで、石田理事長にも6グループの情報集会に加わっていただきました。本当にありがとうございました。

以上で、『情報集会報告会』とさせていただきます。ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■佐藤 貴之君 先週は私の笑顔、今日は家の笑顔が新聞に掲載されました。

今年度累計 374,000 円